

## お花のどこやさん

根城小 二年 類家 穂香  
(八戸市文化協会会長賞)

わたしのおばあちゃんはお花が大スキです。おばあちゃんのおにわには、チューリップや、ゆりや、バラや、ひまわりや、すずらんがあります。春には、チューリップがスキます。夏には、大きいひまわりがスキます。あきにはコスモスでいっぱいになります。ふゆのおにわは、すこしさみしいけれど、おばあちゃんはいえの中に花をかざっています。わたしも、お花が大スキなので、夏休みやれん休になるとなんぶ町に行って、お花を見ます。夏休み、わたしがひまわりとせいくらべをしていると、おばあちゃんのはさみをもっていえから出てきました。わたしは「おばあちゃん、はさみでなにをするの。」と聞いてみました。すると、おばあちゃんは「かれたお花を切るんだよ。ほのかもやってみる。」と言いました。「うん。おもしろそうだから、やってみる。」わたしは、かれた花をきることにしようせん

しようと思いました。

チョコキ、チョコキ、チョコッキン。おばあちゃんのはさみの音がリズムよく聞こえてきました。かれた花を切るのはいいことだけれど、なんだかすこしかわいそうでした。なぜならお花のお友だちが、いなくなるからです。わたしだって、お友だちがいなくなるのはいやです。でも、やめませんでした。かれた花を切ると、ほかの花にえいようがいつて、さいている花が元気になります。きれいな花でいっぱいにするために、花を切るのだと聞きました。わたしは、チョコキチョコキと花のどこやさんになったつもりで切りました。今までとてもきれいだったよ、ありがとうという気持ちで、こころをこめて花を切りました。きれいになった花だんを見て、花がわらっているようにかんじました。お花さん、これからもきれいにさいてね。